

## 9. 久保田ひかる 『海』



私は今回、『海』をテーマに2つの異なる海を描きました。

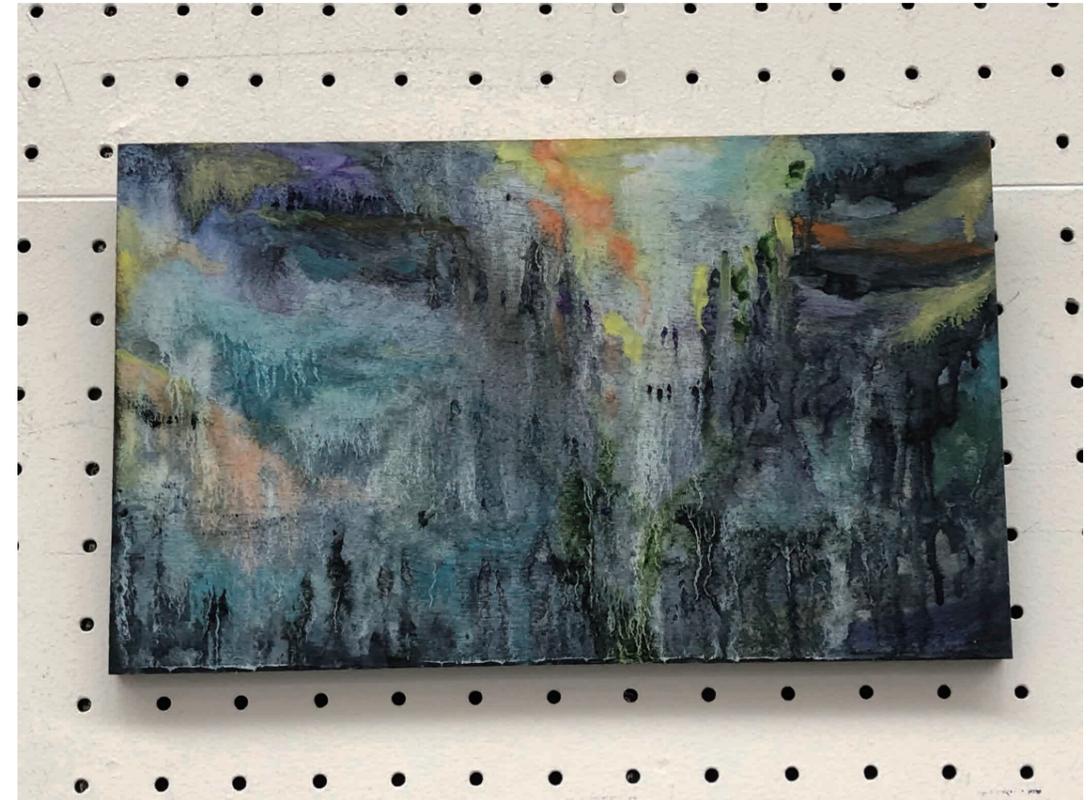
1つは、あたたかくつめたい海です。

この絵は描いていてとても気持ちが良かったことを憶えています。あたたかいピンク色や黄色を重ねていき、線の太さや長短で好きに描きました。

私は海にほとんど行ったことがありません。ですから、今回描いた海は私の記憶やイメージの集合体だと考えています。あたたかくてつめたくて、こわい。でも、やさしい。ずっと見ているとなんだか泣きたくくなるような、何故だかなつかしさも感じるような、それを描きたかったのです。

空の色を映して、うねりながら表情を変えていくその姿を私は思い浮かべながら手を動かしました。

私は海に潜ったこともほとんどありません。ですから、海に潜り、水中から見る海面に太陽のひかりが透けたときの色を私は実のところ知りません。それはどんな色なのだろう、その色の名前や、それを見ているときの私の気持ちを知りたい。その、不安や高揚を少しでも自らの内で消化し描きたかったのです。



この絵は、映画『Blue Mind』という海外の映画から着想を得て描きました。

この映画には『海』という要素がたくさん出てきます。その海や、作中で使われた『青』がとてもうつくしく、そして主人公の少女との交わりかたがとても印象的でした。硬質な建物や映像と、透明な水との組み合わせがなんとも奇妙な生活感の無さ、現実味の無さを演出しているのも素敵だと感じます。それを自分の感じたままに描いたのがこの絵です。また、私は主人公の少女が見た『海』を描いてみたかったのです。彼女が見た、彼女が感じた、色や温度、音、水の感触。そういうものを描きたくなりました。

陽の光が透けた海面や、刻々と変わりゆく水の色、暗く恐ろしささえ感じる深い海底の色。その冷たさや、水の音、肌を撫でていく水のやわらかさ。それを想像しながら書くのは、とても楽しく素敵な時間でした。まるで、私自身が彼女が泳いだ『海』にいるようでした。